

EX.VIEW

EXTERIOR
VIEW
2008・Vol.37

INDEX

2008年 秋号・Vol.37

1-2

勝田無一のガーデン講座1

3-4

第25回 EX施工コンテスト 入賞店発表

5-16

事例ノート

17-20

第9回 古橋宜昌の
EXプランニング実践塾

21-22

東北お庭会
潜入レポート



ガーデナー建築家として
 建築と庭と植物のすべてを理解し、
 建物の内・外を総合的に設計する勝田無一さん。
 空の下の自在空間を充実させるために
 エクステリアをどう取り込んで
 家族が楽しくつろげる場をつくれればいいのか
 そのアイデアを教えてください。



家に庭を取り込んだインナーテラスガーデン。限られた造園スペースを立体的に確保し、庭とテラスを一体化させて広さを演出。

「庭は外の部屋」だから 塀で囲い、のびのびと暮らしたい 勝田 無一

日本人は建物だけでなく「エリア」で生活していた

住宅と庭を設計して35年。いつごろからか、世の中の住宅が自分の考えと違うことに気づきました。なぜだろうと思い、庭と人間の生活史を考えるにつれ、私なりの結論に行き着きました。

そのキーワードが「塀とフェンス」「庭とガーデニング」です。それぞれがどう違うかに、大きな意味が隠されています。

昔の農家を思い浮かべてください。縁側ですいかを食べたり、柿を干したりできる、外と内が開放的につながった建物。

もともと日本の農家は、南向きの広い前庭があってそこで農作業をし、縁側を通して農作物を選別したりしていました。前庭の先には農道、北には常緑の防風林、西には西日を防ぐシラガシなどの高垣があり、建物の中だけでなく「エリア」で生活していました。

で、近所の人々が前の道を歩いていると、「お茶飲んでいきなよ」と声をかけ、村の情報交換をしたりする。少し前までの日本人は、こういう内と外とのあいまいな生活が普通だったのです。

日本の「塀」と欧米の「フェンス」の違い

それが戦後の高度成長で、農地はベッドタウンとしてどんどん開発されました。前の農道はバス道路に、農家の庭は分譲して住宅に。そして道路を近所の人でなくよそ者が歩きはじめると、プライバシーを守る必要が生じ、塀を立てるようになりました。

農村が街になることで、「塀」が発生してきたのです。

一方、欧米の住宅には、日本のような塀はなく、あっても中の庭や建物が見通せるフェンス程度。建物は窓もドアも頑丈で建物自体で完結し、エリアでなくインナーでがっちりガードして生活しています。欧米では個人と社会が対峙しているのです。

そして、いま日本でつくられている新興住宅地の住宅は、大半がこの欧米式になっていて、塀がありません。たしかに猫の額みたいな狭い庭をブロック塀で囲っても日陰になってうっとうしいだけ。それならば塀じゃなくフェンスに、ということなのでしょう。

庭とガーデニング、欲しいのはどっち？

ここで、日本の庭について考えます。

たとえば京都の大徳寺は、広大な庭の一部に4畳半ぐらいの枯山水がつけられています。この枯山水部分は、いわば庭の中の部屋という感じ。龍安寺の石庭も、塀で囲われた落ち着いたたたずまいで、外の一室という雰囲気をもっています。

この時代から、日本人にとって囲われた庭というのは、完全な户外ではなく、「外の部屋」という意味合いだったのだと思います。

塀をつくって囲い、家の中に対して、外に部屋をもうひとつつくること。そういった「外の部屋」をつくるという感覚で、日本人は昔からずっと庭をつくってきたのです。

対して「ガーデニング」とは、囲うべき庭がなくなって、建物の本体だけになってしまったところで、建物のまわりを装飾すること。道を通る人の目を楽しませるため、街をきれいにするため、自分の家の周囲を

ハバイヤが実をつける楽しい
 対面キッチン。ガラス折り戸
 を開けると、キッチンは温室
 と一体化します。



庭の緑を楽しめる半戸外の土間。家の「中」と「外」の空気が同化し、不思議な一体感が。



外壁を塀にした建物。道路側からはシンプルな箱形建築で、内側に楽しいプライベートガーデンがあるとは思えません。



2層の高さで庭ごと囲い込むプライベートシェルターは、風と光は通しても視線は遮断。庭にもうひとつ「外の部屋」をつくり出しています。

デコレーションすること。そのための造園デザインを、私は「ガーデニング」と定義しています。

ですから、庭をつくりたいと思っている方は、「庭」を希望するのか、「ガーデニング」を希望するのか、そのあたりの見極めをきちんとしなければなりません。そうでないと、花も木もきれいに植わったけれど、外から見られていて居心地が悪く、庭の生活を楽しくめない…といったことにもなりかねないのです。

狭いからと諦めず、庭づくりを工夫して快適に

さて、狭いからということで、塀でなく見通しのいいフェンスを選択した最近の住宅は、塀で囲う「庭」を捨ててしまいました。しかし「庭付き一戸建て」は日本人の長年の夢だったはず。郷愁の「庭」を諦めてしまって、本当にいいのでしょうか。

いや諦めちゃいけない、ということで、考えたのが「インナーテラスガーデン」と、「囲いの建築」シリーズでした。中途半端なフェンスはやめて、建物の外壁自体を塀にして、その中に庭をつくることを思いつきました。要するに、家の中に庭を取り込む住宅です。

あるいは、2階までの高さのある半透明なポリカーボネートなどの塀で、敷地全体を大胆に囲ってしまう。こうすれば、光は入っても視線は入らないので、建物を思いっきり開放的にして戸外とつなげることもできるし、裸で庭に出ることだってできます。

いずれにしろ、しっかりと「塀」をつくり、外からの視線を遮断したうえで、家と庭をつなげるのです。こうすれば、人の視線を気にし

ながら暮らすこともなくなり、家に居ながらにして、おおらかに戸外の開放感を味わうことができます。

こういったインナーテラスガーデンや屋上庭園、周囲に高い塀をめぐらせるプライベートシェルターなどの提案は、次号から具体例とともにご紹介していきたいと思います。

狭い土地だからと庭づくりを放棄するのではなく、狭い土地だからこそ庭づくりに知恵を使いたいもの。そして、ちょっと工夫することで、どんな条件の家でも快適な庭を楽しめるのです。

勝田 無一 (かつた・むいち)
 建築家・造園家



1951年 静岡県出身。
 1974年 東洋大学工学部建築学科卒業。
 1983年(有)創設計設立、代表。
 住宅・マンション・施設店舗の設計から、造園・ガーデンデザインの設計まで、「庭と家作り」をテーマにした作品で評価を得る。08年には銅板植木鉢のオブジェ作家としても活動開始。作詩家でもあるなど幅広く活躍。著書「私の設計願未記」創設計、「人気ガーデナーのガーデンデザイン」世界文化社、住宅雑誌等掲載多数。

2008 EXTERIOR DESIGN CONTEST

本年のデザイン傾向としては、ゾーニング自体に干渉空間を設けたり、あえて分割せず連続させたりすることにより、外観全体のデザインにインパクトある個性的なプランが多く採用されました。単に美しい、単に丈夫なだけでは納得しないクライアント様の満足を得た事例としてご参照ください。(トミタ・ジュン)

入賞店一覧(敬称略)

A部門 シンプルモダンスタイル部門

- 金賞 有 INCLUDE
- 銀賞 株サネフジ
- 銀賞 株アポア
- 銅賞 株スピナ姫路事務所
- 銅賞 有松田興業
- 敢闘賞 株三和販売
- 敢闘賞 有石塚土建

B部門 洋風スタイル部門

- 金賞 セキスイエクステリア(株) ザ・シーズン吉祥寺
- 銀賞 株関徳
- 銀賞 北川産業(株)
- 銅賞 有グリーンプロジェクト
- 銅賞 有コンフィ
- 銅賞 株彩光建設
- 敢闘賞 株柴田建設工業
- 敢闘賞 庭園エコプランニング

C部門 南欧風スタイル部門

- 金賞 グランド工房
- 銀賞 ガーデンデザインハウス花大
- 銀賞 藤和建硝
- 銅賞 山田木材(株)
- 銅賞 住友林業緑化(株)奈良営業所
- 銅賞 株あしだ
- 敢闘賞 株花田ガーデニング事業部
- 敢闘賞 エクステリア伸栄

D部門 和風スタイル部門

- 金賞 住友林業緑化(株)奈良営業所
- 銀賞 株フジジュウ
- 銀賞 有グリーンガーデン
- 銅賞 株宗藤商店
- 銅賞 飛鳥グリーン(株)
- 銅賞 須川屋西川藤石衛門商店
- 敢闘賞 有メイク
- 敢闘賞 株サンホームズ

E部門 ウォールEX部門

- 金賞 株紅白アルミ
- 銀賞 株リーフユニティ
- 銀賞 株ファミリーエクステリア
- 銅賞 有 INCLUDE
- 銅賞 株島忠ホームズ新山下店
- 銅賞 株アレックス
- 敢闘賞 ガーデン光房一ツ葉店
- 敢闘賞 株創研

F部門 パブリックEX部門

- 金賞 有寺崎硝子サッシセンター
- 銀賞 渡辺硝子(株)
- 銀賞 榎本建設(株)
- 銅賞 Nishioka
- 銅賞 カワムラサッシ
- 銅賞 株クラブ
- 敢闘賞 川田工業(株)
- 敢闘賞 株清水アーネット

A部門 シンプルモダンスタイル部門

金賞 有 INCLUDE 様

コンテンポラリー感覚のモダンエクステリア。45度の軸線をプライベートゾーンとカーポートゾーンの間に通し、住宅との関係をダイナミックに構成している。



B部門 洋風スタイル部門

金賞 セキスイエクステリア(株) ザ・シーズン吉祥寺 様

風と光の美しいスタイリッシュな洋風空間。ベージュ系の配色で屋内外ともに統一、アルミ角パイプ、穴空ブロック、キューブが規律的に配置、門扉との調和もとれている。



C部門 南欧風スタイル部門

金賞 グランド工房 様

ホワイトとテラコッタが心地よい南欧スタイル。屋根色にレンガ色を合わせ、一体感を高めた。植栽を組合せたシンボルウォールが来客に対する顔となった。



D部門 和風スタイル部門

金賞 住友林業緑化(株) 奈良営業所 様

異素材の組合せが新感覚の美しい和風玄関。木、タイル、アルミが美しく融合し、均整がとれた繊細な質感を実現。素材配色は、玄関をより際立たせた。



E部門 ウォールEX部門

金賞 (株)紅白アルミ 様

スクリーンはプライバシー確保、2室をつなぐデッキは縁側、ホビー空間に。ベーシックな住宅にこそ空間的な自由度と、ゆとり提案が求められている。



F部門 パブリックEX部門

金賞 有寺崎硝子サッシセンター 様

明るく光の溢れる公園トイレ。ガラスブロック、M.シェードなど透光性ある素材活用、計算された壁面高や段差、照明など、そのイメージを劇的に変えたパブリックトイレの好例。



審査委員長
トミタ・ジュン氏

建築家・デザイナー/一級建築士
東京電機大学建築学科講師
株アティモント・デザイン研究所代表
1967年京生まれ
ニューヨーク大学スタジオアート学科卒
東京電機大学建築学科卒

全体講評

生活者の活動を心地よく受けとめる機能、視線と視覚を意識したプライベート～パブリックへのゾーニング、素材と色の統一感や遊びをもたせるなど、エクステリアの考え方には変化が生まれている。今年は、エクステリアならではの植栽、壁、フェンス、スクリーン、シェルター、門扉などの素材を「複合的に重層的に」駆使してデザインし、現場のハードルをクリアした多くの好例を見ることができた。



事例ノート、CASE 1

大阪府柏原市
株式会社 オカモトガーデン 様

2000坪の園芸センターの一角に エクステリアのモデルガーデンを新設し エンドユーザー様100%をさらに推進

当社は、父が27年前に観葉植物のレンタル業からスタートし、18年前にここで園芸店を開いて、現在に至ります。

私は12年前に入社したのですが、ある日名古屋へ仕入れに行った折に、園芸とエクステリアが合体したショップを見て、「これだ!」と思いました。それから仕事の合間に図面描きの講習などを受けて準備し、8年前にエクステリア部門を立ち上げました。

しかし来店されるお客様は大半が花や植木が目当てです。そこで、そういう方々をもっとエクステリアに引き込むために、具体的な生活提案を盛り込んだ展示場をつくらうと決意しました。

計画にあたっては、勉強会などで親交のあった(株)ひまわり造園土木・浦崎様(本誌29号に登場)をはじめ、さまざまな同業者の方に相談に乗っていただきました。たとえばM.シェードを“カーポート”でなく“団樂の場”の提案に使ったのは、浦崎様のアドバイスによるものです。こうして今年の春、80坪のモデルガーデンが完成。GWにはリニューアルオープンフェアを開催し、来店客1日200組、見積もり20組とますますの成績でした。現在、お客様はほぼ100%エンドユーザー様です。一時期ハウスメーカーと半々ぐらいでしたが、自分たちらしい提案をしたかったので、ハウスメーカーと縁を切り、エンドユーザー様1本でやっていくことに。今回のモデルガーデンもその戦略の一つです。

エクステリア部門のスタッフは私を含めて6名。私と店長の北條が営業兼プランナーで、ほかにキャド担当1名、現場管理3名です。営業とプランナーを兼ねるのは、お客様の話を直接聞いてプランに反映させたいというこだわりからです。実績は月15~20棟です。

デザインのポリシーは、お客様のご要望をしっかり採り入れたうえで、プロとして判断し設計することと、植栽や緑をできるだけプラスして安らぎの空間をつくることです。

今後は年2回のチラシ配布やHPなどで、この存在をもっと浸透させていきたいですね。また、今までは9割方現地へ打ち合わせに行っていましたが、モデルガーデンに相談室も設けたので、来店して打ち合わせする体制を取りたいと思っています。



専務取締役
岡本 圭一郎 様



週刊エクステリアに「売れる展示場を探求してリニューアル、ガーデンセンターとの相乗効果見込む」という記事が掲載されました。



モデルガーデンを新設し、今年のゴールデンウィークにリニューアルオープンフェアを開催。

園芸部門+エクステリア部門 相乗効果で集客アップへ

私は27年間園芸ひとすじで、エクステリア部門は息子に任せています。ここは2000坪の敷地と18年の歴史があり、花苗や樹木のガーデンセンターとしては地域でかなり知名度があります。エクステリアの展示場オープンを機に、園芸部門との相乗効果でさらにお客様を呼び込みたいですね。



代表取締役・岡本光生様(写真左)



モデルガーデンの周囲はレンガや縦格子でゆるやかに囲われています。たっぷりあしらった緑がさまざまな異素材を違和感なく調和させています。



M.シェードの下の庭。家族がくつろぐだけでなく、ここで料理して食べられるアウトドアキッチンも提案。



M.シェードの明るさが下の空間に開放感をもたらしています。向かいの木造の建物は事務所。



2000坪の広大な園芸センターにはビニールハウスが連ち並び、鉢や苗、植木などがたくさん販売されています。



最新の素材・デザイン・技術を取り込んだモデルガーデン。M.シェードをファサードに設置して、「アウトドアリビング」の空間づくりを提案。



門から玄関へのアプローチは、防錆性にすぐれたウッドデッキをはじめ、さまざまな床材を使用し、お客様の参考に。

リニューアルガーデン

M.シェードの前庭にアウトドアの団樂を提案
コンサルティングルームでじっくり相談も



店長・北條 渉様

リニューアルオープンフェアは大盛況で、モデルガーデンによる具体的な生活提案を大勢のお客様にご覧いただき、「花だけの店ではない」と印象づけられたと思います。私は営業兼プランナーでもあり、平日はなかなか常駐できませんが、今後お客様を呼び込む体制を強化し、「エクステリアのことならあそこに行こう」と思っていたいただける場所にしたいですね。



コンサルティングルームにはパソコンが2台設置され、事例を参考にしたり、プランを検討しながらじっくり話し合いができます。



ZERO片岡純氏デザインのガラスクラフトを展示。モダンなエントランスを提案しています。



門まわりをはじめ所要所に照明器具を設置し、美しい夜景も提案。お客様の反応も上々です。



どこを見回しても豊かな緑に包まれ、心癒される園内。



塀や門まわりのデザインや素材使い、植え込みのしつらえなど、お客様の参考になる実践的な提案が盛りだくさん。



ビニールハウスの入り口はそれぞれ趣向を凝らしたデザインで演出され、まるで植物園がテーマパークのような楽しさです。



事例ノート. CASE1 株式会社 オカモトガーデン様



【エクステリア全景】
左側に少し見える塀は既存のまま、門まわりとカースペースをリフォーム。門扉も既存。古い部分と新しい部分が違和感なく調和。

【門まわりとM.シェード】
リフォームして新しくなった門まわりは、ガラスを使った洗練されたデザインに。M.シェードとガラスのシャープな印象を曲線が和らげています。

M.シェードやガラスに曲線を組み合わせるとやさしい印象に
N様邸

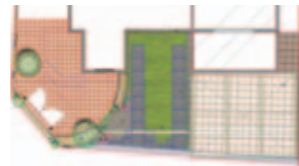
庭や塀はそのまま門まわりとカーポートだけをリフォーム。施主様はカーポートにM.シェード、門柱にガラスをご希望。それらの硬質で冷たい質感と、既存の門扉や建物の重厚感をいかに調和させるかがポイントでした。そこで塀にアールをつけ、丸型ガラスをはめ込むことで、全体を柔らかくやさしいイメージに。さまざまな要素が違和感なくまとまりました。



岡本様・北條様と、取材に同行した関西EX支店大阪営業部・田辺、乗本。



【M.シェードのカースペース】
駐車スペースにはM.シェードを設置。片方の梁を延ばしたので、邪魔な柱もなく、スペースを広く使えるし車の出し入れもスムーズに。明るさと開放感も好評です。



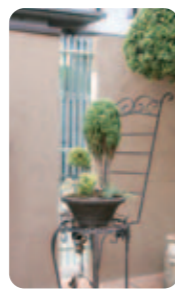
【M.シェードの夜景】
昼とは違う表情を見せるM.シェード。壁に設置したアップライトが、トラスの繊細な陰影を映し出しています。



【ガラスの陰影を演出】
門柱の笠木の裏についたLED照明と、足元のアップライトで夜の演出を。ガラスに彫られた模様が美しく浮かび上がり、幻想的なファサードに。



【アールのついた塀】
駐車場とアプローチを曲線の塀で柔らかく仕切りつつ、丸型ガラスブロックやスリットで閉鎖的にならないように工夫。塀の足元の花壇は、野草が自然に生えたようなイメージに演出。



【ガラスのスリット】
塀の要所要所に設けられたガラスのスリット。プライバシーは守りつつも向こう側の気配がわかり、庭に開放感をもたらします。



【床タイルの心遣い】
アプローチは既存のタイルを生かし、手前のステップ部分だけ新しいタイルを使用。違和感なくつなげるのに苦労したそうですが、予算をできるだけ抑える心遣い。

事例ノート. CASE2

福井県 福井市
有限会社 シャレス様

品質や仕上げにこだわるていねいな仕事が身上
ハウスメーカー主体の現状から
展示場をつかってエンドユーザー様へ転換を



代表取締役
高本茂樹様

以前はゴルフ場の管理会社に勤務していたんですが、そのときベテランの造園職人に仕事がきれいだと言われて、本格的にガーデニングを志願。キャドを独学し、8年前に創業しました。

もともと祖父が造園をやっていたこともあって、この業界の専門用語もほとんど知らなかったのに、職人の世界にはすんなり入れました。

当初は、前会社のころからつきあいのあったハウスメーカー1本でした。それから徐々にHPや口コミでエンドユーザー様が少しずつ増えてきて、現在はハウスメーカー等7：エンドユーザー3ぐらいの比率です。今後はこの数字を逆転させたいですね。やはりエンドユーザー様が相手のほうが自由な提案ができますので。

そのために現在、展示場づくりを進めています。今は自宅を事務所代わりにしていますが、近くに100坪の敷地を確保し、仕事の合間に少しずつ施工しています。仕事が忙しくてまだ2割程度しか仕上がっていませんが、それでもログハウスの事務所だけは10月中頃にオープンできそうです。スタッフは7名。職人が5名に、営業兼プランナーの私と、経理兼プランナーの妻です。

デザインで重視するのは“建物とのバランス”と“お客様の生活スタイル”です。建物あつての外構だと思えず、日々のライフスタイルの中で心地よいデザインは流行に左右されず飽きがこないと思います。緑はできる限りふんだんに入れ、とくにメインツリーを必ず1本植えるようにしています。

また、素材や仕上げのクオリティにはこだわります。品質のいいものを提案したいので、メーカーの工場見学はできるだけ行きますし、表札やポストなどのディテールも必ず実物を見て決めています。

今後は、まず展示場を一刻も早く完成させ、HPもリニューアルして、一般のお客様にもっと認知していただけるようにしたいですね。そして、これからはていねいな仕事で、本当にいいものを提案していきたいです。きれいな仕事は後々まで残りますから。



自宅兼事務所。枕木や塗り塀、草花の生い茂る小径など、ナチュラル感覚のエクステリアが訪れるお客様にも好評。カーポートはG1ですっきりと。



新事務所はもうすぐ完成へ



コツコツと手づくりしている本格ログハウスの事務所は、秋に完成予定。100坪の展示場は現在2割ほど。早期完成をめざし、仕事の合間に少しずつ工事しています。



製図を学び、今は現場にも
主婦の視点でキメ細かい提案を

エクステリアは全くの素人で、ゼロからのスタートでした。3年前から製図を勉強し、去年からは現場にも出て経験を積んでいます。子どもがまだ小さく両立は大変ですが、主婦の視点を生かして、奥様に共感・納得していただける提案をしていきたいですね。

取締役・高本美夏子様





【シンボルツリー】
建物の右端にはヒメシャラを
植え、アッパーライトを設置。
夜は壁面に美しい樹影が映
し出され幻想的な雰囲気。



【エクステリア全景】
白とグレーのシンプル&シャープな建物に合わせ、グ
レーの門柱と直線的なカーポートを配置。植栽のパラ
ンスも絶妙で、ユニークな外観に仕上がっています。

ユニークな門柱で建物と一体感のある外観に
K様邸

「コンクリートの床のありきたりな外構でなく、変わったデザインを」とのご希望に沿って、床は御影石を使用。建物のアクセントになっているグレーの壁面とコーディネートさせて、同系色のタイル貼りの門柱を設置しました。建物の建築段階から参加したので、玄関入り口に縦格子をプラスするなど、建物のデザインにアドバイスもできました。



【玄関から道路を見る】
縦格子と門柱があることで、
道路からの視線が直接入っ
てこないで、落ち着けます。



【玄関アプローチ】
ワイドな門柱とその裏の樹木（ソヨゴ）、ステップの上に後付けした縦格子で、道路から玄関口をさりげなく目隠し。門柱は前にも花壇を設けてデザインのアクセントに。



【カーポート】
跳ね上げ門扉（エクモア1型）を上げたところ。カーポートは積雪対応のG1を採用。

【すべらない床材】
北向きで冬場は雪が溶けにくいので、できるだけすべりにくい床材をと配慮して、ゴツゴツした御影石を使用。



ベンチを兼ねた低い塀で
オープンな交流を

D社様 モデルハウス1

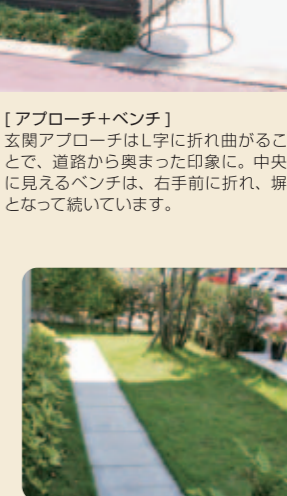
建物を美しく見せるオープン外構で、ご近所や家族とのコミュニケーションを楽しむ…というテーマで設計。ベンチを兼ねた低い塀をぐるりとまわしたので、訪れた人と腰掛けておしゃべりしたり、植木鉢を置くなど自由に使えます。植栽はメリハリをつけて、建物を引き立てるアクセントに。



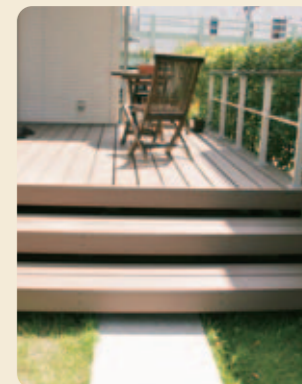
【エクステリア全景】
建物の大きさとダイナミックなデザインに負けないように、大きめの木を配置。玄関を目隠ししたり、和室の前には紅葉を植えるなど配慮。



【低い塀】
ベンチを兼ねるほどの低い塀なので、前庭がこんなに開放的。座ってもいい鉢などを並べても楽しい。



【デッキへのアプローチ】
前庭を横切る敷石は、建物に沿って左に折れ、その奥にあるデッキまで続きます。右側に並行して見えるのはベンチを兼ねた塀。



【リビングデッキ】
敷石をたどると、リビングの窓外に設置されたデッキに到達。デッキはひとつと木手すりはマイリッシュを採用。



【アプローチ+ベンチ】
玄関アプローチはL字に折れ曲がることで、道路から奥まった印象に。中央に見えるベンチは、右手前に折れ、塀となって続いています。



リビングデッキとバスコートで屋外を楽しむ

D社様 モデルハウス2

庭のスペースが少ない場合の工夫を提案。ファサードはオープン外構に。リビング前にはひとつと木でL字のデッキを、また、浴室の前にもひとつと木でバスコートを設置。どちらも目隠しの塀を立てて、屋外空間をプライベートに楽しめるようにしました。

【エクステリア全景】
さまざまな種類の植木を、高低の変化をつけバランスよく植えることで、美しいオープンファサードに。右端の白い塀の内側はリビングデッキ。



【木で目隠し】
窓の前に木を植えることで、道からの視線をさりげなく遮断。重苦しさを感じさせないように、線の細い株立ちの木をチョイス。

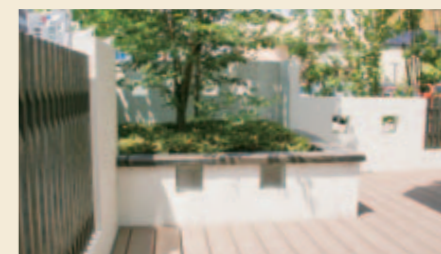
【バスコート】
浴室の窓の前にもひとつと木でデッキを設置。高い塀で囲ったので、安心してつるづるバスコートに。



【小さな中庭】
建物でコの字に囲まれた空間には、クロガネモチの木を植えて、窓から緑を楽しめるようにしました。



【リビングデッキ】
リビングの窓の外には、ひとつと木でデッキをL字にまわし、テーブルを置いてアウトドアの団楽の場に。縦格子と塀の組み合わせで、開放感を保ちながら外の視線を遮断。



リビングデッキを逆側から見たところ。L字の付け根部分には土を入れて木を植え、戸外の雰囲気を出しながら目隠しも。

事例ノート、CASE 3

北海道旭川市
庭彩工房・株式会社 オカモト 様

42年の実績に満足せず、若手職人を育成 2つの展示場をカタログ代わりに 提案力とていねいな施工で地域No.1を!

昭和42年に先代が興した建築ブロック会社は、その後トータルエクステリアの設計施工へと業務を拡充。平成3年に引き継いだ私は、今後の発展には「人」が大切だと考え、資格の取得・研修・先輩の指導などを通じ、若手職人の育成に力を入れてきました。ていねいな仕事や挨拶ができて、お客様に信頼していただける…そんな人材を育てています。スタッフは、営業4名、設計1名、経理2名、造園・工事・土木部6名、配送2名、それに現場の職人を加えて総勢27名。実績は月に100件前後です。お客様は当初は9割以上がハウスメーカーからの紹介でしたが、エンドユーザー様を増やすため、施工例や素材サンプルが見られる「カタログ」として、10年前に展示場を開設。現在はハウスメーカー6割：エンドユーザー4割になっています。今後はこの割合を逆転させたいと考え、この春、市の北東に第二展示場をオープン。新規の来店客獲得を狙っています。大事にしているのは提案力。こちらの意見を押しつけずご要望をしっかりと聞いた上で、ありふれたものでない個性的なプランを提案するようにしています。素材は、北国の凍結に強く色彩に満ちた輸入自然石、インターロッキングを自社開発するなどして、珍しい石材やブロックを安く提供できるのが強みです。勉強や情報収集をつねに心がけ、全国の業者で組織されたエクステリア工業会の勉強会にも参加。本州の業者様の話や聞くと、北海道との違いを痛感しますね。たとえば本州では予算をそのまま見るところに使えますが、北海道ではその4割は見えないところ（＝凍結対策の基礎工事）に使わざるを得ないのです。そういう事情のなかで、よりお客様に満足していただくエクステリアを…と模索する毎日です。アフターサービスは、毎春DMを送るほか、ちょっとした修理の話でもすぐにかがうようにしています。今後はリフォームに注目しています。エクステリアと共に住宅リフォームも手がけ、家と外をトータルに提案していきたいですね。



代表取締役
柴田 正 様



展示場の入り口。さまざまな素材を使った門扉や床の施工例が見られ、素材やデザインの参考にできます。



展示場の一角にはG1を始めとする積雪対応のカーポートも展示。



西神楽展示場

1000坪に多彩なデザインの施工例を提案 石やブロックなど資材も豊富に

10年前に100坪でスタートし、現在は1000坪まで拡張。アクセスのよくない場所なので、新規のお客様の来店もありますが、むしろ相談中のお客様にイメージや素材の確認・選択をする場所として役立てていただいています。



カラマツ材ログハウスの相談ルーム。
左から取締役部長・岡本伸司様、工事部長・西村弘様、代表取締役・柴田正様、営業課長・岸本直仁様、常務取締役・森則康様。



ログハウスの中の接客コーナー。木の香りでリラックスしながら相談できます。カタログやサンプルも多数用意。



さまざまな床材を使い分けて、色や質感、表情の違いを紹介。植物や樹木もふんだんに盛り込み、居心地のいい庭空間に。



あすま家などを設置して庭のアクセントにするとともに、戸外の団楽を提案。

和の庭のコーナーもあります。



資材置き場には海外から買い付けた石材やブロックが集められ、サンプルで色や質感をチェックできるのでお客様にも好評です。

❄️ 1m掘って基礎をつくる北国ならではの「凍結対策」❄️

旭川では凍結深度が80cmあるので、1m以上掘ってコンクリートを流し、ブロックや砂利などを何層も積んで凍結防止の下地づくりをします。こういう見えないところにお金がかかるのが、北国のエクステリア事情です。



事務所にはさまざまな資格取得の賞状や、「造る者の心が伝わらなければ感動は生まれません」というスローガンが掲げられています。



東旭川展示場

今春オープン。好立地を生かし 新規来店客の開拓を!

5月3日～5日のオープンフェアには連日70～80組が来店。アクセスがよく、集客力のある園芸センターの一角にあるので、新規のお客様を開拓するのが狙いです。いまのところ広さは70坪ですが、今後拡張・充実したいと考えています。



ログハウスの相談ルーム前の床もさまざまな素材で表情豊か。枕木に見えるのはコンクリート製の擬木です。



70坪のスペースをフル活用して、アールやレンガの柵、さまざまな床材のバリエーションなどを展示。石材やブロックのサンプルも置かれています。



「夢を理想の形へ!」と展示場の誘導チラシ



格子と曲線でシンプル&シックな美容室に
P様邸(店舗)

オーナーは「ガラスブロックなどを使ってシンプル&シックに」とご要望。そこで格子をモチーフに、コンクリートやアルミで無彩色にまとめました。塀や花壇のラインはアールにしてやさしさもプラス。アプローチにはレンガを敷いて、暖かくお客様をお迎えしています。



[エクステリア全景]
建物の一角にある美容室。オレンジ色の外壁に、コンクリートとアルミを基調にしたクールな塀が調和してハイセンスな雰囲気。



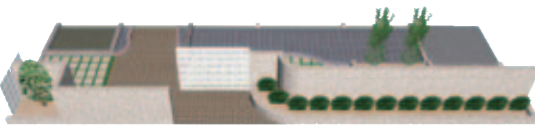
[アプローチ]
入り口には手前にアルミ枠のガラスブロックの仕切りを立てて、道路から入り口をさりげなく目隠し。レンガの床の暖かみがお客様を中へいざないます。



[多彩な床と曲線使い]
レンガ・角芝平板・御影砂利を使い分けた床と、塀や縁石の曲線が、多彩な表情をつくっています。



[左端から見る]
角芝平板の床が美しい。レンガもオーナーの希望で隙間をあけて敷いたので、いずれ間に草が生え、より風合いのある床面に。



[エクステリア全景]
隣合う3棟の住宅に、それぞれツインZを設置。直線的なラインとアーバングレーの色調が、シンプルモダンの建物に美しく調和しています。

隣合う3軒にツインZを設置し、トータルに演出
M社様住宅

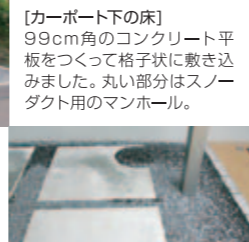
ハウスメーカーから依頼され、連棟のエクステリアをプランニング。条件は「2台駐車のカバー」と「植栽」を入れること。そこでツインZを採用、床材を工夫しておしゃれに仕上げました。植栽は北国の春を楽しめるように、春に花の咲く木を選びました。



[カーポート]
車が2台納まるツインZ。積雪対応150cmの堅牢なつくりですが、ライトな色合いなので重苦しさなくすっきりとした印象。



[植栽]
手入れが楽なように植栽は、一カ所にまとめて。シンボルツリーはチシマザクラです。



[カーポート下の床]
99cm角のコンクリート平板をつかって格子状に敷き込みました。丸い部分はスノーダクト用のマンホール。

事例ノート. CASE 4

宮城県 仙台市
ベターデイズ 様

植木職人から起業して1年半
営業・デザイン・工事・メンテの全行程に関わり
自己満足でないお客様のための提案を

植木職人として7年間修行した後、外構会社に入り、3年間営業&設計を経験。やっていくうちに、自分ならこうしたいという思いが強くなり、昨年の1月1日に起業に踏み切りました。スタッフは私1名のみ。まずは、前の会社のお客様を紹介をお願いする一方で、住宅メーカーにも声をかけ、HPもつくりました。お客様の割合は、当初はエンドユーザー7:ハウスメーカー3ぐらいでしたが、現在は5:5ぐらいで、一番バランスがいいと感じています。エンドユーザー様ばかりだと、浮き沈みが激しくて少々怖いので。それに、ハウスメーカーには下請けとしてでなく、施主様と直接打ち合わせすることを条件で紹介をもらっているため、仕事の内容はエンドユーザー様に対するのと変わりません。



代表
鈴木満幸様

この仕事の決め手は「提案力」だと、会社勤め時代には思っていました。しかし、それだけではないことを起業して知りました。営業・設計・工事管理までなにかも自分でやってみると、「工事」がいかに大切かわかるようになったのです。どんなにきれいで見栄えのいいプランでも、自己満足ではダメで、結局実際に施工してナンボのもの。デザインだけでなく、工事の仕上がり、その後のメンテナンス…すべてが満たされて、初めて満足していただけるのだと悟ったのです。また、より外構のイメージがつかみやすいように、お客様に提案する図面には必ず建物まで入力しています。建物あつての外構・庭だと思っっているのです。

ですから、今は、いままで以上に相談時間をかけて、お客様の要望に柔軟に答えるようにし、必要に応じて、見栄えよりも使いやすく長持ちするようなプランも提案しています。

広報活動は、専門誌「ガーデン&ガーデン」や地元の情報誌「りらく」に広告を掲載。HPでは今までの施工例を紹介しています。

アフターサービスは、近くを通った時に小まめに顔を出すようにしています。そして不具合などあった際にはなるべく自分で補修やメンテナンスに伺うようにしています。今後同じミスをしないように、クレームから学ぶことはたくさんありますから。

実績は年間70件。当面はこのペースで、人を増やさず1人ですべてに関わりながら内容を充実させ、「これが自分のスタイル」というものをじっくりと模索していきたいと思っています。

🌲「宮城家づくりクラブ」に参加🌲

宮城の山林の環境を守るため、宮城県産の木材で廉価につくる住宅を推進する活動に参加しています。建築士や各分野の職人など10数業者が参加し、協力して家を建てます。私は外構・造園工事を担当。建物の計画段階から関わり、建物と庭がトータルにバランスのとれた住まいづくりをめざしています。

<http://www.m-iedukuri.com>



HPは奥様が作成。会社創設と同時に立ち上げ、これまで手がけた施工例などを載せています。



地元の情報誌「りらく」に載せた広告。庭の生活を豊かにする商品・M. フレージを使って、お客様に庭の有効利用を呼びかけ。



営業で使用する会社の紹介チラシ。



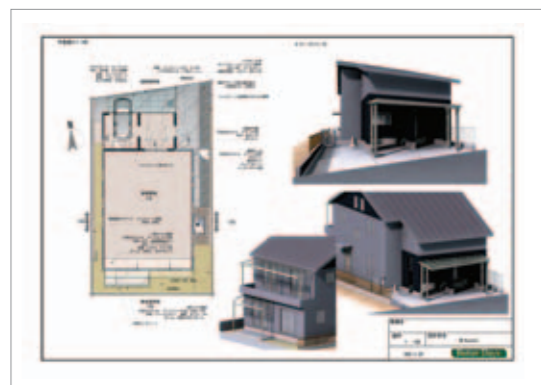
「ガーデン&ガーデン」07年秋号のショップ紹介ページに「外構工事や庭まわりをトータルに提案。デザインと細やかな対応が自慢」と紹介。



<http://homepage2.nifty.com/betterdays2007/>

狭小敷地にルーフを付けビルトインガレージを完成 K様邸

敷地が限られていて、ビルトインガレージに車が完全に入りきらないK様邸。そこで敷地対応力の高いマルチルーフ・ルーフフェスを採用。わずかなファサード空間を無駄なく使いきって、2台分のガレージを完成。中庭側には上下階にテラス屋根をつけて、こちらも限られたスペースを快適に活用しています。



【エクステリア全景】
ビルトインガレージの前にルーフフェスを設置。建物との調和も絶妙で、躯体の一部のような一体感があります。左端にはラフォルの門扉を付け、御影石を敷いてアプローチに。



【ルーフ+ガレージ】
建物の前の敷地は台形になっています。その形状に合わせてルーフフェスのルーフを台形に加工。境界線までぴったりと納めています。左側の柱が前に出ないため、車の出し入れがしやすいと好評。



【テラス屋根】
庭側のテラスには、上下階ともテラス屋根・グッドエバーを設置。アーバングレーの色調が手すりや窓枠とも合って、建物に自然に溶け込んでいます。これだけ屋根があれば、洗濯物を干したまま外出しても安心です。

狭い場所の門扉、隣家へ配慮のカーポート G様邸

「駐車場はオープンにして、庭は囲いたい」というご希望に沿って、駐車スペースの内側に門扉フェンスを設置。門から玄関までの距離がなく、ステップが迫っているので、門扉は扉式でなくスライドタイプを採用。カーポートは、積もった雪が隣家に落ちないようにとの要望で、前後にアールのついたデザインに。アーバングレーで統一したので、淡い色調の建物とも絶妙に調和しています。



【エクステリア全景】
クリーム+アイボリーの淡い色調の建物に合わせて、門柱はアイボリーに。カーポートと門扉・フェンスはアーバングレーで統一。



【門扉とカーポート】
門扉はカムフィ2型、フェンスはメッシュフェンス。カーポートはマリード。屋根の傾斜が前後なので隣家に雪が落ちる心配がなく、手前に柱のない片支持タイプなので、スペースが広く使えて車の出し入れが楽です。



【玄関アプローチ】
コンクリートの床にレンガで格子模様を描き、アプローチのアクセントに。門からすぐにステップで、扉式の門扉だと引っかかってしまうため、スライド門扉を採用。



【着脱サポート柱】
カーポートは片支持なので、強風の場合など屋根が煽られないように、着脱式のサポート柱が付けられます。



【2つの入り口】
カーポートの奥にもう一つ門扉を設置。車から降りて、買い物荷物をここから奥の勝手口へ運べるので便利です。門扉はメッシュフェンスとハンヨウ型材を使って現場施工。

M.シェードでテラス兼カーポートの空間づくり O様邸

限られた庭スペースを有効に使いたいとご希望で、駐車だけでなく、テラスとしてもくつろげる空間をM.シェードで提案。また、愛犬が庭を自由に走れるようにと、ペットガードとして伸縮式の門扉も設置しました。「建物のイメージにぴったりのおしゃれなエクステリアになって嬉しい」とO様も大満足。



【エクステリア全景】
3階建ての建物とのバランスを考え、M.シェードは高さが一番高い3mのものを採用。コンクリート打ちっ放しのモダンな外観にシャープなシルバーが美しく調和しています。



【テラス】
M.シェードは車を置かないときはテラスとしても使用。床にピンコ口とレンガで幾何学模様を描き、家族で楽しめるスペースに。伸縮門扉はペットが中で走れるように設置。



【敷地対応力】
スペースに合わせてスッキリと納まったM.シェード。限られた空間を有効に使えます。建物とのイメージもぴったり。



【M.シェード】
透明パネル使用で、屋根の下でもこんなに明るい。片支持で柱が少ないので、車の出し入れもスムーズです。

古橋宜昌の EX プランニング実践塾 第9回

■ 前回の課題の確認

まず始めに前回の課題の敷地条件、および施主の要望について確認しておきましょう。北入りの敷地条件で、南側のメインガーデンのデザインという課題でした。

おもな施主の要望は

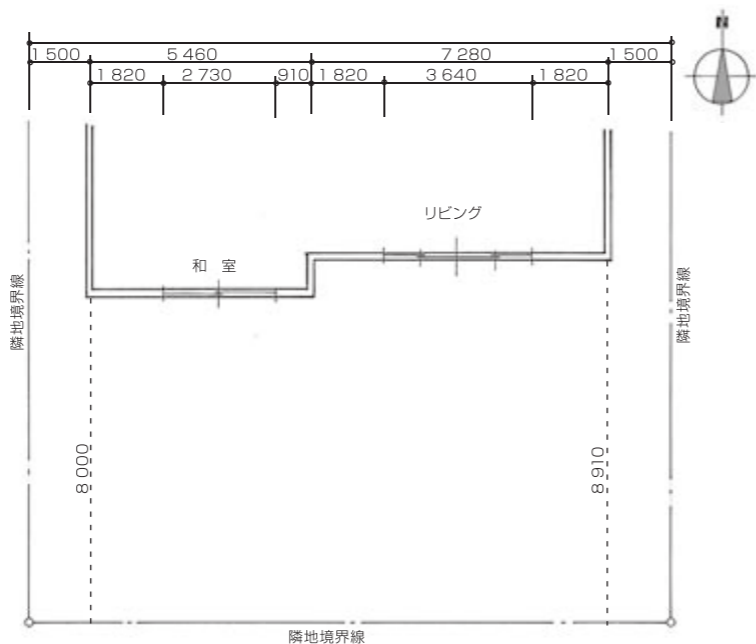
- ・リビング前に少し大きめのウッドデッキ
- ・ウッドデッキの東側に目隠し
- ・和室前には濡れ縁と沓脱ぎ石
- ・デッキとは別に自然石のテラス
- ・リビング前は「使う庭」
- ・和室前は「眺める庭」

などでした。

今回のポイントはウッドデッキと濡れ縁自然石のテラスをバランス良くレイアウトしてリズム感と奥行きをどの様に演出するかということです。

みなさんはどのようなプランでまとめられましたか？

今回もまずはゾーニング図を使って基本的な考え方や、動線計画を解説していくことにしましょう。

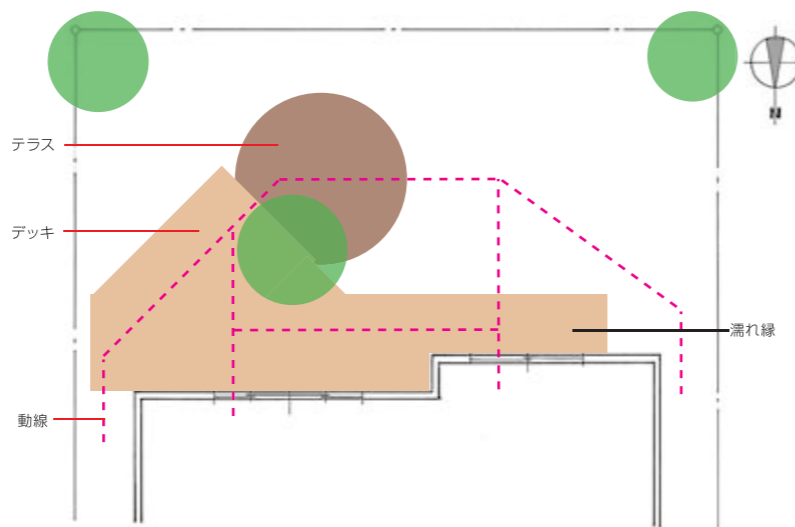


■ ゾーニング

ガーデンのプランを考える時は右の図のように建物を手前においてイメージするとよいでしょう。

四角いスペースに四角いウッドデッキを配置するよりも斜めに配置することで空間にリズムも出ますし、周囲の植栽スペースにも変化が生まれます。

デッキと濡れ縁、テラスを独立させて配置するのではなく、各要素を連結させたり重ね合わせることで、つながりもできて使いやすいプランとすることができます。

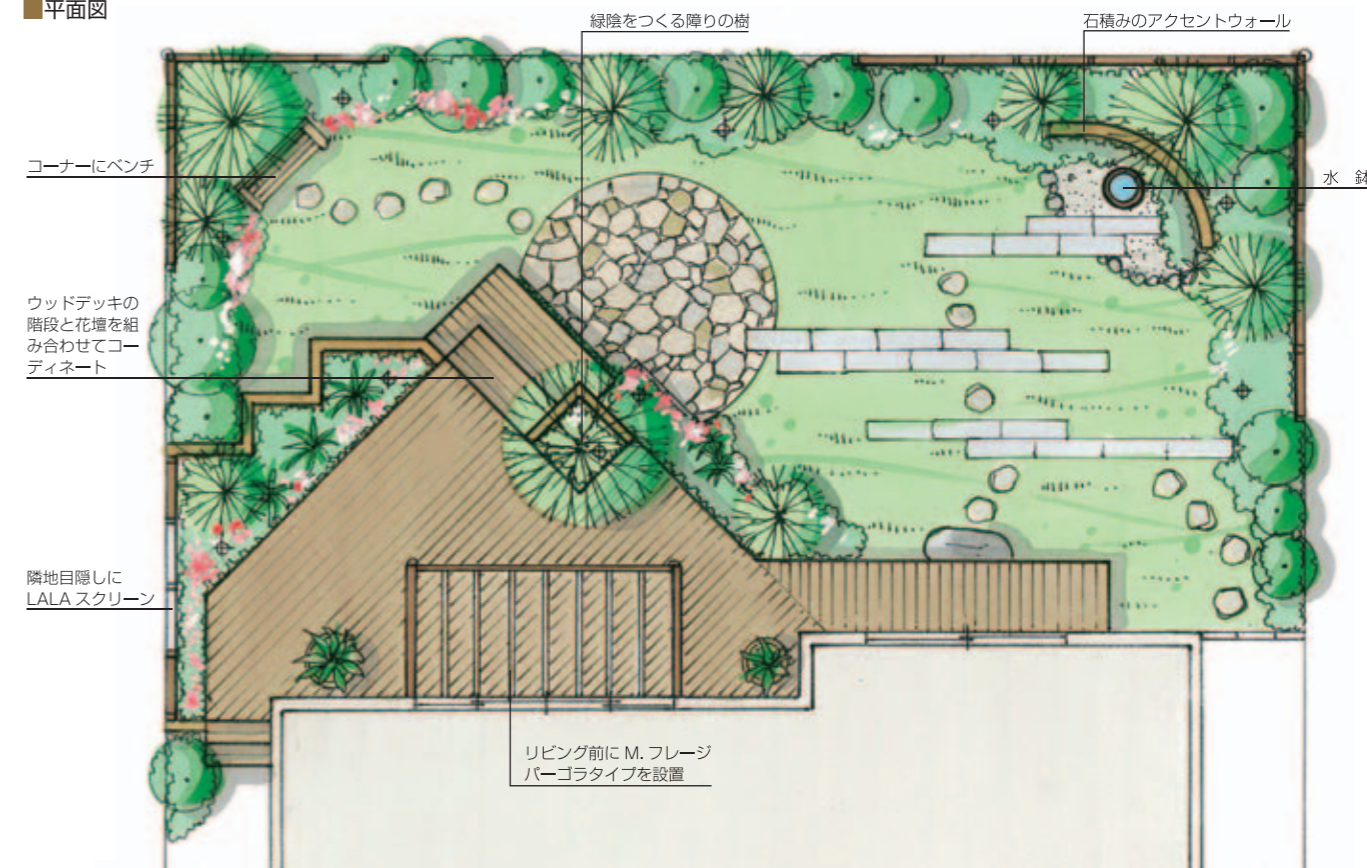


■ 模範プラン

それでは、ゾーニング図をもとに作成した模範プランをご覧ください。

ウッドデッキを建物に対して斜めに配置したり、隣地境界際まで活用することで見た目と使い勝手はるかに向上します。

■ 平面図



■ イメージパース



もちろん、このプランが正解というわけではありませんので、あくまでもプランの一例としてご覧いただき、ご自分で考えられたプランと比較して各ゾーンのバランスや納まりなど、実邸を設計する際の参考にしてください。

Furuhashi Norimasa



古橋 宜昌
ふるはし のりまさ

生年月日: 1958年4月6日
東京電機大学理工学部建設工学科卒。
有限会社エクスプランニング代表取締役・エクステリア & ガーデンアカデミー東京校長・
一級建築士・一級造園施工管理技士・一級土木施工管理技士。
JAG日本ガーデンデザイナーズ協会会員・英国王立園芸協会会員・同推奨品認定委員・大手ハウスメーカーのエクステリア部門を経て、
1997年、日本では珍しいエクステリアとガーデンの設計業務を請け負う会社「エクスプランニング」を設立。
個人住宅のエクステリア&ガーデン設計は年間500棟を越え、その設計事例は多くのガーデニング専門誌等で紹介されている。
ホテルオークラで開催されたガーデニングショーでは「イギリス大使夫人の庭」のデザインと施工を担当。設計業務の傍ら専門学校や
英国王立園芸協会などのセミナーの講師、デザインコンテストや「TVチャンピオンガーデニング王選手権」の審査員なども務める。

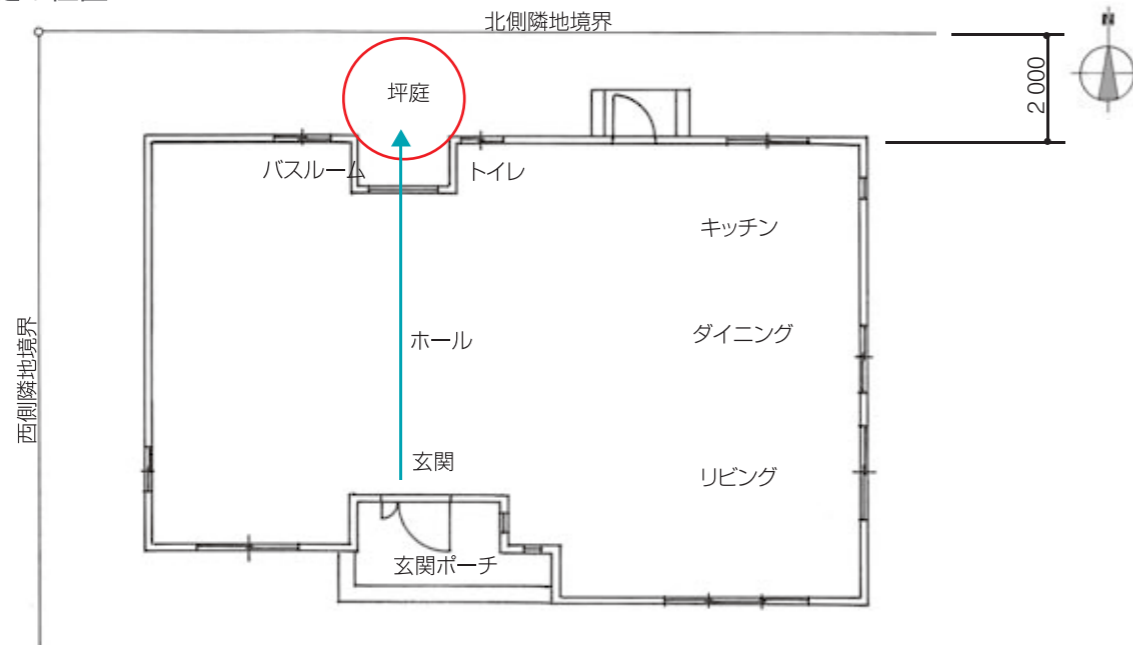
ホームページアドレス <http://explanning.m78.com>

第9回目の課題について

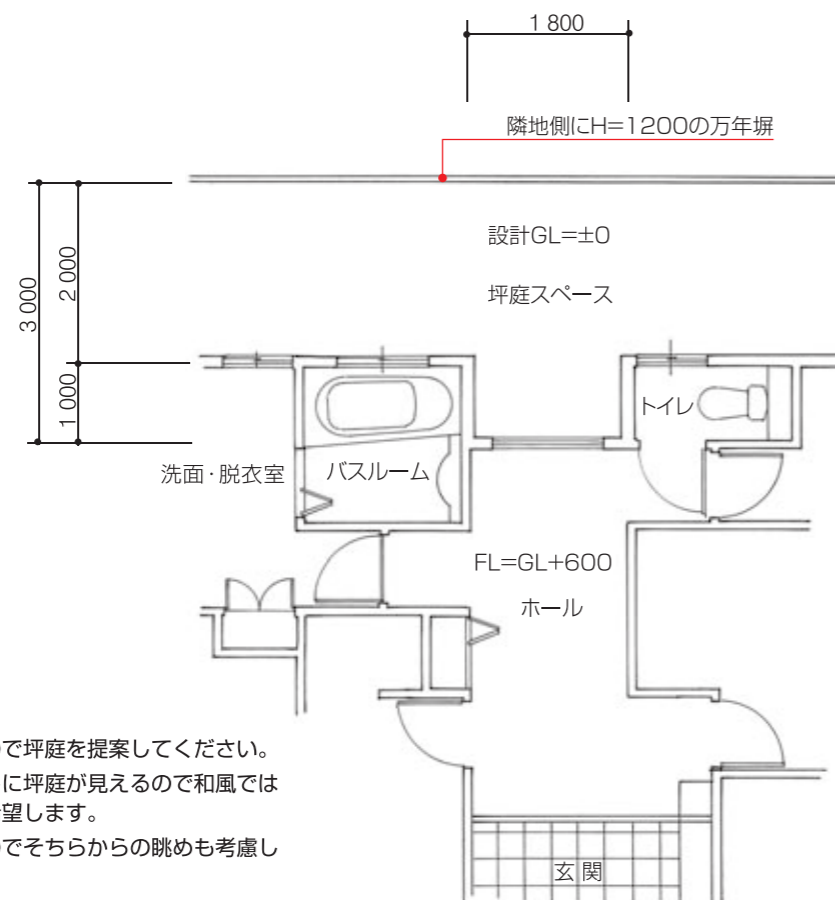
それでは今回の新しい課題をご覧ください。
今回は北側にある坪庭のデザインを考えていただきます。建物に対する坪庭の位置関係は下記の通りで、間取りの詳細も併せてご覧ください。

下記の施主の要望を踏まえて、平面図やイメージパース図などを作成し、次号の模範プランと比較できるように準備しておいてください。

坪庭の位置



間取りとの関係



施主の要望

- 北側にスペースがあるので坪庭を提案してください。
- 玄関から玄関ホール越しに坪庭が見えるので和風ではなく洋風のデザインを希望します。
- 隣にバスルームがあるのでそちらからの眺めも考慮してください。

「私ならこう考える！ゾーニング手順と計画時のポイント」

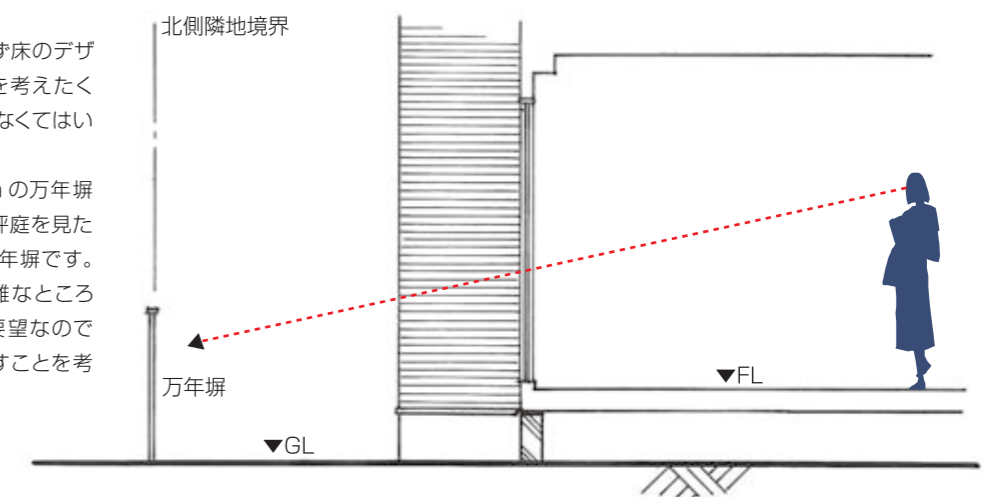
今回も私がプランニングする際に、どのような事を考えているのかその一部をご紹介します。プランニングの参考にしてみてください。

前回は南側の主庭(メインガーデン)のデザインを考えていただきましたがいかがだったでしょうか？模範プランではリビング前のウッドデッキ、そこから降りるステップ。降りたところには自然石のテラスがあり、テーブルやイスなどガーデンファニチャーも提案すると良いかもしれません。和室からは濡れ縁、沓脱ぎ石、飛び石などを經由して庭へと出て行けます。これらの主庭と、今回の課題である坪庭のプランは同じ考え方で良いのでしょうか？

答えはNOです。主庭はそこへ出て楽しむ事も考慮してプランニングしなくてははいませんが、坪庭はあくまで室内からの眺めを優先して考えることが基本です。したがって次のようなことを考えながらプランを立てることをお勧めします。

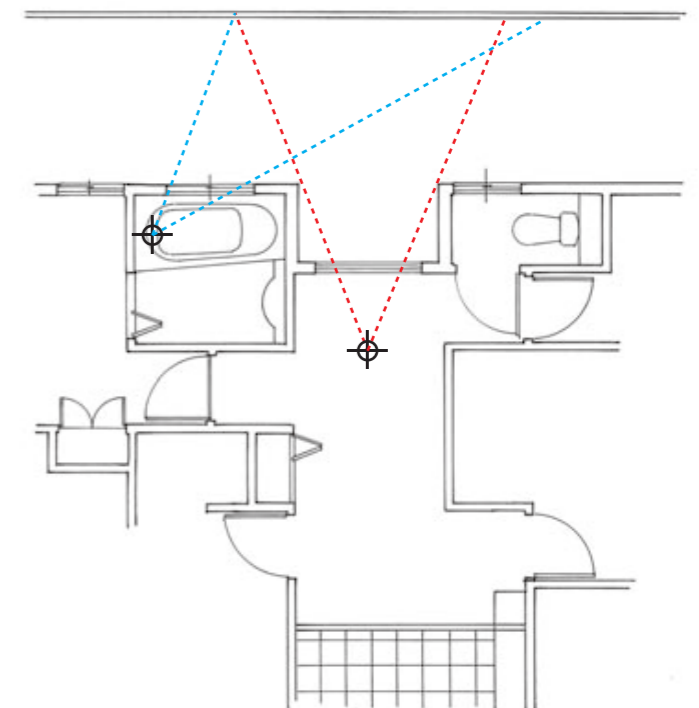
ポイント1 床のデザインよりまず背景を考える

坪庭のデザインという、まず床のデザインや地被植物の種類などを考えたいと思いますが、まず考えなくてはならないのが背景です。今回は隣地境界に高さ1.2mの万年塀があるので、ホールに立って坪庭を見た時に最初に見えるのはこの万年塀です。和風であれば竹垣などが無難なところですが、今回は洋風とのご要望なのでスクリーン系のアイテムで隠すことを考えてみましょう。



ポイント2 室内から見える範囲をチェックする

次に平面的な検討に入ります。室内から見えないところまで計画するのは意味がないので、1階の間取り図上で坪庭を眺める位置を仮定し、見える範囲を作図で求めてみます。その範囲内で背景や床、植栽の計画に入ります。できれば、この範囲を35cm程度(基礎より少し低く)盛土して、室内との一体感を出すようにすると良いでしょう。



模範解答は次号で掲載、解説しますので、以上のことを踏まえて素敵なプランを考えてみてください。

「その場で提案」をめざして手描きパースの練習。 意欲にあふれた充実の研修会でした

7月24日(木)、宮城県仙台市内で、東北お庭会&三協立山アルミ仙台支店による「プランニング研修会」が開催されました。

出席された販工店様は38名。

今回は、本誌でもおなじみの古橋宣昌先生を講師にお招きして、イメージパースを描くテクニックを学びました。

先生のアドバイスをもとに実際にパースを描き上げるという実践的な内容に、参加された皆様も熱心にシャープペンを動かして作業に集中。充実した研修会の様子取材しました。



「現場写真からイメージパースを作成するテクニック」



講師を務める
エクスプランニング
代表取締役
古橋宣昌様

3回目の今回は、より実践的な内容に。テーマは、「手描きでササッとパースをつくること」です。

相見積もりが激化している中、お客様からご希望を聞いたあと、「いったん持ち帰ってプランニングして、後日提出」では、大切なお客様がよそへ流れてしまう恐れがあります。そこで、ご要望を聞きながら、お客様の目の前で簡単なプランを提示できるように、パースを手描きするテクニックを古橋先生に教わりました。

現場写真を拡大したものにトレーシングペーパーを重ね、先生の指示にしたがって、そこに作図していきます。

ポイントは写真の消点(VP)を見つけること。参加された皆様は、先生の適切なアドバイスにうなずきながら、着々と作図を進めていました。



勉強になりました！ぜひ実践したい

株式会社グリーンケア
設計・製図 鈴木照美様

とても簡単に描けました。当社は営業がお客様のご要望を聞いてきて、私がそれをもとに設計しますが、営業がその場で作図できれば、お客様との話もより早く具体的に進むでしょうね。私自身キャド歴10年で手描きからは遠ざかっていますが、機会があったらぜひお客様の前で提案してみたいです。



さまざまな研修を通じて
高め合いたい

東北お庭会会長
富士工営株式会社
代表取締役・矢内勝夫様

東北お庭会は現在13名。今回のプランニング研修会をはじめ、実務者会議や施工写真コンテスト、新製品の説明会など、活発に活動を行っています。今後も、三協立山アルミさんと手を携えながら、御庭番の技術サポートや商品の研修、会員同士の情報交換などを行い、お互いを高めていきたいと思っています。

会場の声から

仲間づくりを求めて入会しました

株式会社グリーンケア
代表取締役・鈴木壽秋様



今回から参加させていただく新人です。仙台のエクステリア業界は非常に厳しく、そんななかで仲間をつくって情報交換する必要性を痛感しています。たとえばHPの作成など、みなさんどんなふうに行っているかお聞きしたいと思っています。

活発な情報交換が魅力ですね



有限会社ジーエル青葉
代表取締役・野地 宏様

5年ほど前、御庭番購入をきっかけにお庭会に入会。仲間意識が芽生え、情報交換が活発にできることや、商品について詳しく知ることができるのが利点ですね。今後も積極的に参加していきたいと思っています。



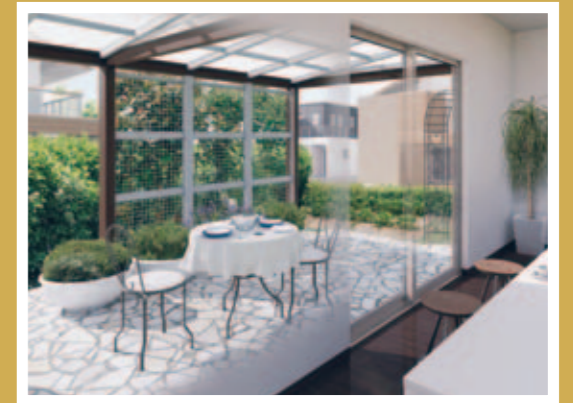
仙台支店 EX部
澤畑勝久課長

提案力を磨き、 競争力を高めましょう！

昨今、住宅着工数減により、厳しい市況が続いています。そんななかで勝ち残るには、同業他社との差別化が必要で、提案そのものが重要になります。皆様にはぜひこの研修会で提案力に磨きをかけて、競争力を高めていただきたいと思います。

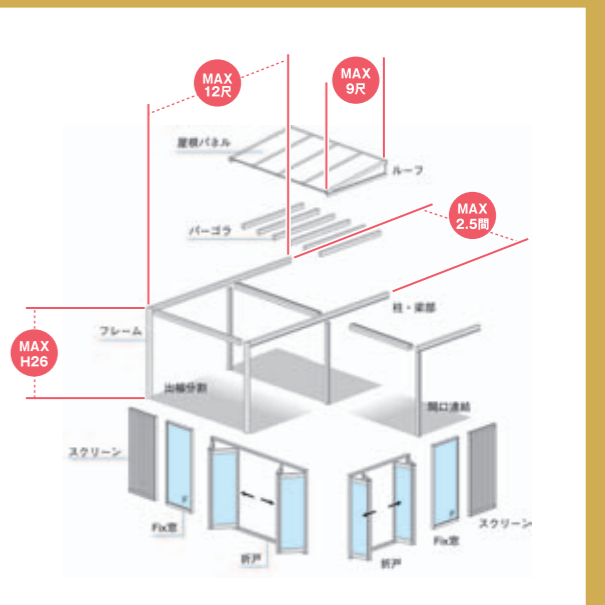
M.フレイジ

フレキシブルな敷地対応力と多彩なアイテムの自在な組み合わせで、お施主様好みのオリジナルな屋外空間を可能にします。



CONSTRUCTION

多彩なアイテムと自在な組み合わせが魅力。





EXTERIOR VIEW 2008
Vol.37



 三協立山アルミ株式会社

〒933-8610 富山県高岡市早川70
エクステリア建材事業本部 情報誌編集室 TEL.0766-20-2261 FAX.0766-20-2071
<http://www.exteriorworld.jp/>